

えなっ子あみの目安全隊（高山市）

- 結成年月 平成17年7月
- 活動エリア 江名子校区（高山市）
- 代表者 丸山 昌平
- 構成員数 37人（平成28年2月現在）



▼隊長の丸山 昌平さんにお伺いしました。

【活動を始めたきっかけ】

平成16年秋に「飛騨ふる里トンネル」が開通したことにより、江名子校区内の交通量が増加し、それまでの農村基盤の町らしい落ち着き、静けさが少しずつ失われていきました。

平成17年4月、江名子小学校児童の連れ去り未遂事件が発生したことを契機に、PTAが中心となって、具体的な対策・見守り活動の組織運営などについて検討が進められました。同年7月には、PTA、社教連合、連合町内会、民生児童委員、交安委員会、長寿会、各種女性部などが参加して「えなっ子あみの目安全隊」を結成し、江名子小PTAの地区委員会組織を中心に子どもの登下校時の見守り活動を行うこととしました。

【活動の経緯】

活動に先立ち、車のサンバイザー取付用の「パトロール実施中」のステッカーと、黄地に青で隊名を表示した専用ベストを新調し、平成17年9月から登下校時の見守り活動をスタートしました。

平成18年に「山王トンネル」が開通したことにより丹生川方面から高山市内へと向かう車両も加わって交通量が激増し、ラッシュ時に子どもだけの判断で交差点を渡ることが極めて困難、危険な状態となったため、交通整理と子どもの安全確保、そして通学に付き添う見守り活動を行うようになりました。

その後も、交通網の整備や地元企業の事業拡大等によって校区内の交通量・渋滞は増え続け、平成24年頃からは交差点での交通指導が活動の中心となりました。子どもの安全を脅かす交通事情の激変



に対して、われわれ安全隊としては、町内会への各種要望（横断歩道への横断旗の設置、歩道橋の架設、歩道表示の補修など）の提出、子どもの安全確保に関する関係団体の懇談会等の開催・出席、交通事情の激変と整備上の問題点に関する行政への提起など、様々な活動を行ってきました。

また、子どもたちの安全確保に生かそうと、平成26年から毎年、荏名神社前交差点で1週間の交通量調査を行っています。

現在は、昨年4月に設立した「江名子校区協働のまちづくり協議会」の子ども育成委員会傘下の登録団体として、登下校時の見守り活動（平日 6:50～7:40、14:50～16:00）を毎日続けています。

【活動を通しての思い】

～あいさつ運動と連動させることで、活性化と持続性を図る～

子どもたちが大きな声であいさつすることは、一日の始まりを意識させることになり、交差点の緊張感や、ボランティアの存在を確認させることにもなります。こちら側（ボランティア側）にとっても、子どもたちと元気なあいさつを交わすことが、活気に満ちた一日のスタートにつながることは間違いありません。この好循環が「えなっ子あみの目安全隊」の活動を支えていると思います。

